

鳥取大学地域学部地域文化学科二〇〇八年度地域文化調査

無駄安留記隊

報告書

2008



『無駄安留記』原本（鳥取県立図書館所蔵）

はじめに

二〇〇五年度より刊行を始めた無駄安留記隊報告書は、今年度で四巻目ということになる。今回の調査にとりあげたのは、高草郡の前半部分である。

鳥取平野を南北に流れる千代川の下流左岸側の地域がかつての高草郡の郡域であったが、明治時代に気多郡と合併して気高郡になり、郡は廃された。そのため、地名としてはかなりなじみが薄くなっているが、現在でもなお「高草」の名称は例えば「高草中学校」など公共施設などに使われているので、地域の方であればきっとご存じなのだろう。

さて、無駄安留記・下巻は高草郡から始まる。冒頭は渡しにあった安長、そして嵐が鼻、次に岩室、賀露、徳尾、さらに湖山とつづく。鳥取大学からも近く、学生にとっては身近な地域である。その後、伯州街道（旧国道九号線）をさらに西に進んでゆくのであるが、今年度の調査は湖山池までとした。高草郡の残りの部分は来年度に調査したい。

この安長から湖山までの千代川左岸平野は、鳥取市の近郊として比較的開発が進んだ地域であるが、調査をしてみると、思っていたよりも昔の姿がよく残っているという印象を受けた。神社や寺院の位置はもとより、道路もほとんどがその跡をとどめ、嵐が鼻の土手も半分までそのままであった。だが、そんな中で大きく違った点が二つあった。一つは千代川の流路および賀露港の変貌であるが、これについては本文に詳しい。二つ目は「野崎^{サキ}」という地がみつからなかったことである。現在ほぼ消えてしまったと思われるこの地名について、本文で「反時計回り」仮説から位置を推定しているが、この場で少しこの仮説に補強をしておきたい。

野崎は湖上八勝（湖山八景）の一つ、「野崎落雁」として取りあげられている。一般に八景としてよく知られているのに、近江八景、金沢八景などがあるが、これらの八景がどの順に並べられているかを簡単にみてみたい。まず近江八景であるが、石山秋月、瀬田夕照、粟津晴嵐、八橋帰帆、三井晚鐘、唐崎夜雨、堅田落雁、比良暮雪の順に並べられており、地図で位置を確認すると南から北への並びとなっていることがわかる。金沢八景は、小泉夜雨、称名晚鐘、乙船帰帆、洲崎晴嵐、瀬戸秋月、平潟落雁、野島夕照、内川暮雪の順で、こちらは地図ではほぼ北から南に並ぶ。このような線状の並びの他、例えば水戸八景は時計回りの並びであるなど、円状の並びをとるものもみられる。つまり、八景の並びは、秋月・夕照・青嵐……といった主題順で決まるのではなく、しかし決してランダムな並びでもなく、線状であれ円状であれ一定の空間的規則にもとづいている可能性が高いと考えられる。したがって「湖上八勝の並びは反時計回りである」という仮説は、かなり有力な説ではないかと思われるのである。

他方、無駄安留記の本文には「野崎の小松数万叢生、砂漠にはらばいて」とあり、野崎はそれほど肥沃ではない砂地にあったこともうかがえる。とすれば、現在、大学の敷地となっている湖山池に突き出た部分の土地のこととはちがう……。いずれにしても、八景に取りあげられるほどの名勝の地がほぼ完全に忘れ去られているということは、なにか不思議な気がするのである。というわけで、もしこの野崎についてなんらかの情報をお持ちであれば私たちのほうにぜひお伝えいただきたい、とお願いをして、「はじめに」に代えたい。

（茨木 透）

目次

はじめに

iii

『稲葉
佳景 無駄安留記』 調査報告（高草郡篇上）

……

1

安長嵐ヶ鼻

3

岩室村・岩室神社

5

加路浦 吉備大臣廟

吉備大臣廟（加路社）

7

賀露の地形

10

隠岐の島

11

鳥ヶ嶋

12

東漸寺

14

徳尾森

徳尾の森

16

野見宿禰

18

湖山邑 霞の郷

和泉式部胞衣塚

20

和泉式部産湯井戸

21

和泉式部と湖山

23

湖上八勝

25

野崎落雁

28

福井晚鐘

29

コラム 調査の記録

31

付録一 翻刻 『稲葉景佳 無駄安留記』 高草郡

.....

33

付録二 翻刻 『安政四年 在方御改正御用日記』

.....

43

付録三 翻刻 「因州湖山三七景舟行」

.....

49

おわりに

53